淺間の嶽

14
3157
51(20)

14
3157
51
(20)

風俗淺間嶽十一編上

種清作芳幾画泉市板

方圓の器に順ふもとも水のみにのみ也金も然り其術文盡りて湯とまる則ち亦方圓の形乃隨なり是堅牢の性なれども中に水脉のれば有り金も原土中の産にして水に養生もらるも氣のるを以て寸水も精を得るとき八なほど方圓ふ隨ふべき現に凝る晌ハ石と変る女のり凝るものハ忽地にして解ぐ氷ハ湯を以て灌ぐ晌ハ僅に解ぐ也ぞ氷も亦ぞ発ハ三倍也金ハ其性堅牢なる也ぞ鮮てその器に類ることぞ速く水ハその性柔冷あれぞ吃るとき紅ハ形状あり捨ふべきも形を滅も其を理に依て、推ぞ也ぞ水ハ陰なり金も陽なり或いハ金ハ陰の陽あるもの金ハ土木の生ず水ハ陽の陰なる物をしろく此稗史の花葉やうしの陰乃陽なるもとをやうく這さうしの實根とす

文久二稔
壬戌初春

柳水亭種清誌

彫婦者旧猶

秋の野に千ちくさの
物名 うぐひす尋ひきの
ねよ鳴く虫の声に限を

七刀
松

上人
松

左

右

せろ平
やどろう
おまろ

慶應二寅歳新春刊行

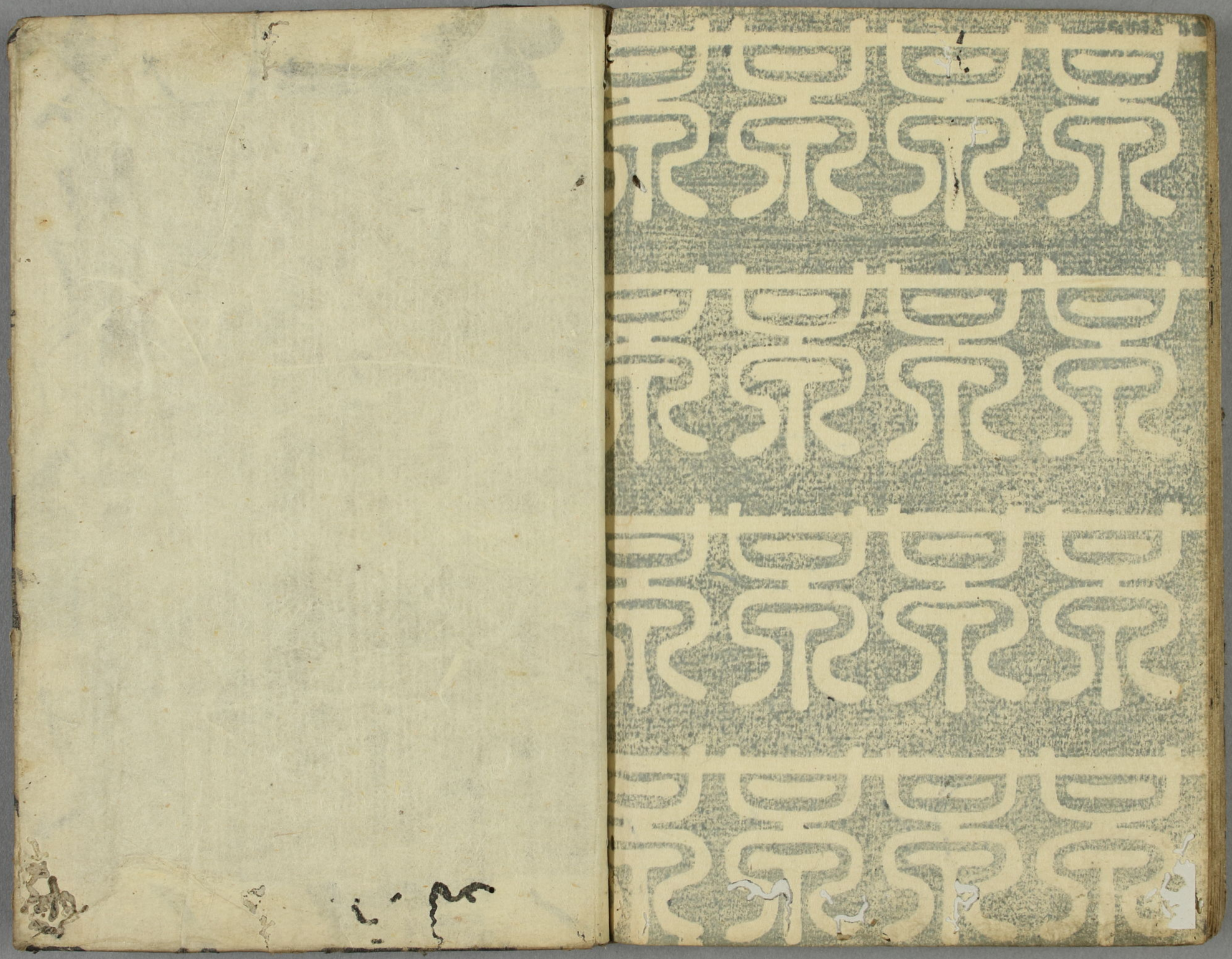
女郎花五色石臺
初編より十編迄大尾
曲亭馬琴作
一陽齋豊國画

黄金水大盡盃
十七編十八編
島水春水作
一壽齋國貞画

滑稽道中膝栗毛
十返舎一九作
十編 十一編
一筆庵英泉画

風俗淺間嶽
十四編十五編
柳下亭種員作
一壽齋國貞画

忠臣婦人
いろは文庫
九編十編
柳煙亭種久作
一壽齋國貞画

假名文古
一休草紙
十六編十七編
同作同画

芝神明前
甘泉堂梓